

# 風かほる



はる！

桜満開から早 新緑へ  
暑い・寒いの？  
服が決まらない  
布団は厚いの・薄いの？  
ちよつとしたことが惑い  
となり、困らせる今日

もう一つ困惑すること  
に、コロナ禍で何もでき  
ないことが平常だったの  
で、何もしないことに慣  
れてしまう事

できることはとんとん  
やる できないことでも  
仲間と一緒にできるよう  
にしよう

仲間・家族・職員・地域  
の皆さん  
新年度は、一緒に新しい  
日常を創って

いきませんか

## 令和5年度 新入仲間

入所おめでとう 一緒に頑張ろうね 仲間自治会

長谷川 来夢さん



踊ることがとくいです  
カフェで働くことは楽しいです  
仲間とウォーキングを頑張ります

ギターが得意です  
農園の収穫を頑張ります



画・山田俊輔

原子明良さん

No.119

2023年5月12日

社会福祉法人  
はぐるまの会

広報委員会

川崎市多摩区  
菅馬場 1-19-24  
TEL 044-946-1308

## 仲間より 《私たちの願い》

会の最後に仲間自治会長から 読み上げられた文書です。来年は仲間から合格をもらえるよう肝に命じます

No.1 《私たちの願い》 2023年4月  
はぐるま仲間自治会

＊はぐるまの仲間には40年前から

1. 自分たちでできる事は自分たちでやる
2. できない事でも仲間できると言う目標があります。そのようにして私たちはできる事を増やし、やりとげる仲間を目指してきました

しかし最近、疑問に思う事が仲間の会議で、議題になります

- ＊仲間の手順が説明なく、変わっていたり、仲間が決めた予定をその場で職員が変えたりする事がありました
- ＊又、困った事を相談しても、あとでねとか、ちょっと待てと言われ、何も変わらない事もあります
- ＊話を聞いてくれて、共感してくれる職員が増えて欲しいです
- ＊職員が忙しかつたり、人数が少ない事も良くわかります
- ＊少しでも私たちの声を聞いて下さい

しかし、それは何でも職員に助けを欲しいと言う事ではありません

- ＊仲間も職員に頼りすぎる事も良くないと思っています
- ＊その区別がわからなくなる事があるので、そういう時は勉強させて下さい
- ＊そのような事を話し合ったので以下、よろしくお願ひします
- 一、仲間の事はできるだけ、仲間が決めて下さい  
わからない事は助けて下さい
- 一、変更が必要な時もあるので、そういう時はわかりやすくみんなの前で説明して下さい
- 一、職員に相談する時、これは仲間です話し合う事が、職員にやってもらう事が、わからない時があるので、私たちがわかるように話し合いの場を×って下さい

### 編集後記

唐突ですが、最近「立」の意味を再発見しました。「らしさ」なのだといひので、このように考える時、季語の立春・立夏・立秋・立冬も腑に落ちます。では、自立は「自分らしさ」といふことになります。仲間の自立を支援するとよく言いますが、「らしさ」を見つけれられるといいと思ひました。



# 今までありがとうございました

## 退職された方々

○松井 隆一様 (理事)

2022年12月23日 (逝去)

(前号特集)

○旧はぐるま菅工舎 瀧島 亮 様

○第1ホーム 石井 治男 様

○さくらホーム 佐藤 妙子 様

○第4ホーム 相馬 美規子 様

○第1作業所 石神 百合子 様

★皆さん、長くお勤めされた方が多く、本当にお世話になりました。

# これからよろしくお願ひします

## 新採用の方々

○染めの家 窪江 美央 様

○第1ホーム 伊藤 泰 様

○第4ホーム 神谷 和子 様

○さくらホーム 倉田 智子 様

○あおばホーム 古川 月美 様

○送迎添乗 秋永 史妃 様

## ご挨拶 瀧島 亮

はぐるまの会に入社して十数年、仲間達と共に活動する中で生産活動から始まり登山やマラソンなどの行事に地域のバザー、きょうされん運動など様々な経験をさせてもらいました。中でも思い出深いのは「販売活動」です。月曜日から木曜日まで作業所で製品を作り、金曜日に電車で東京、神奈川の商店街にあるお店を巡り販売するこの活動は中々大変な物でした。まずとにかく歩く事。

2〜3駅は歩くこともざらでしたが、平然と歩いてしまう仲間たちの体力に驚かされ、日々の運動の大切さを知りました。一軒一軒仲間達が訪問すると、真剣に話を聞いてくれる方や迷惑そうにされる方、時には怒鳴られる事もあり反応は様々でへこむこともありましたが、それでも仲間達は諦めず、気持ちの強さに感心させられたことを覚えています。大変な事も多かったですが、前回来た時には注意をされたお店が次に来た時には待っていてくれたりと、自分たちが活動することで障がいのある人について地域の方々の理解が進む事に喜びを感じ、仕事の楽しさを知りました。現在販売活動はしていません。

みらぼや農園での地域交流は活発になっていて、ベテラン仲間はこれまでの経験を活かし、若い仲間は新たな形で活動に取り組み、より一層はぐるまの仲間が地域に根付き、知ってもらえたら嬉しく思います。

私は長野県に引っ越しますので直接はぐるまの仲間達を支援することはなくなりませんが、はぐるままで学んだこと、経験したこと、感じたことを新たな地でも活かし、これからも障がいのある人との関わりを大事にして、共生社会に寄与できればと思います。

自分を成長させてくれた仲間達にご家族、はぐるまの職員の方々と地域の皆様には本当に感謝しています。長い間どうもありがとうございました。はぐるまの更なる発展を願ひ、仲間たちの活躍が長野まで聞こえてくることを楽しみにしています。



新たなるゴールに向かって

2023年3月1日 はぐるまマラソン大会  
職員の部アンカー 瀧島

# 全体会にて



仲間自治会担当  
式次第 作成中



仲間発表  
「私たちの仕事」  
を紹介します



多摩市民館 大会議室  
仲間・家族・職員総動員  
沢山になったね

仲間入所式と同日「全体会」が開催されました。3年ぶりの集会でしたので、会場のあちこちから、「久しぶりです、お元気でしたか」「お代わりなくお過ごしですか」と再開を喜ぶ挨拶が飛び交い、200人収容の会場が満員で、はぐるまの熱気を感じます。

仲間たちの正装姿もきりつとして、頼もしかったですね。職員の正装も普段とは別人のようで、見違えるようでした。

法人からは、旧第1作業所の跡地に高齢対策施設を予定している趣旨の「中期計画」構想報告がありました。

昨年「みらぼ」ができたばかりで、急ぎすぎはしないかとも思われますが、実は数年前から検討され、「みらぼ」の設立と並行して進んでいたことなのです。

過去のはぐるまの文献を紐解くと、20数年前から「高齢化問題」を見据えた活動をしてきたことがわかります。その頃、仲間の多くは20代、30代だったわけですが、障害を持った仲間の高齢化は早いと言われています。これから60歳を超える方が増えてきますが、毎朝走る事・規則正しい生活を送る事・力いっぱい働く事を30年以上取り組んできたことは、仲間の生きる力となって蓄積され

ています。これからのように年を重ねていくのか、新時代をえがき、実現に向かって計画を推進していきます。

事初めに 座談会で意見交換をしました  
「仲間らしくはたらく」「仲間らしく生活をする」をテーマに仲間・家族・職員交えて4つのグループに分かれて話をしました。

## 家族は (一部抜粋)

- ・ 高齢になっても仲間ができることは自分たちでやらせてほしい
- ・ 働くことの意味を、職員は考えてほしい
- ・ 体が動かなくても1日家にいないで、軽作業ができる場所があるといい
- ・ 「みとり」までみてほしい
- ・ 入院後戻れる場所があってほしい
- ・ 仲間と楽しく暮らしてほしい

## 仲間は

- ・ 仲間ですり切れる仕事があったらいい
  - ・ 70歳でも元気に働きたい
  - ・ いろんな仕事があったらいい
  - ・ 社会人らしい生活があったらいい
  - ・ やりたいことは満載でした
- (野球観戦・旅行・買い物・図書館その他たくさん)